

参考資料1

【 社会実験(ワークショップ)結果 】

第1回 安全安心なまちづくりワークショップ結果

～わがまちの「安全・安心」を点検しよう！～

【ワークショップの目標】

地域で様々な立場で活動している人に集まっていただき、地域が抱えている防犯・防災などの不安に対する課題や地域活動の課題を認識します。そして、最終的には「私たちのまちは地域コミュニティが強かったから、災害が発生しても犠牲者はゼロであった」、「新潟市に住んでいて良かった」と誇れる安全安心なまちづくりを目標にします。

【第1回ワークショップの概要】

- 第1回ワークショップは、有明台小学校区（中央区）、松浜小学校区（北区）、亀田西小学校区（江南区）において、各小学校区の住民や小中学校教諭をはじめ合計73名の参加を得て実施しました。
- 新潟市全体と各小学校区の災害リスクの説明の後、各テーブルにおいて、災害や普段の生活における不安要素、地域活動を行うにあたっての現状の課題について議論し、グループごとに意見を発表しました。

【第1回ワークショップの開催プログラム】

- ① 開会挨拶 / 全体ファシリテーターの紹介・挨拶
- ② ワークショップの目的について説明
- ③ 地域における災害の危険性について説明
- ④ 第1回ワークショップの進め方について説明
- ⑤ グループ作業
- ⑥ グループ発表
- ⑦ 全体のまとめ
- ⑧ 第2回ワークショップについて / 閉会挨拶

【全3回のワークショップスケジュール】

【第1回】 平成20年12月2日、8日、9日
わがまちの「安全・安心」を点検しよう！



【第2回】 平成21年2月2日、3日、4日
地域コミュニティを活性化するための方法について考えよう！
～人と人が助け合い、支え合う「〇〇小学校区」づくり～



【第3回】 平成21年2月23日、24日、25日
〇〇小学校区の「行動計画」を作ろう！

第1回ワークショップの進行状況

開会挨拶

新潟市から挨拶があり、その後、全体ファシリテーターからワークショップの目的について説明がありました。



地域における災害の危険性について説明

新潟市全体と各地区における災害の危険性について、説明がありました。



グループ作業

A～Dグループに分かれて、わがまちの安全・安心に関する不安や問題について自分の意見をカードに書いて模造紙にはり、他の人と似たようなテーマの意見のグルーピングを行いました。



グループ発表

各グループから発表者をひとり選んで、それぞれのグループで出された意見を発表しました。各グループの考えをワークショップ参加者全員で共有することができました。



閉会挨拶

オブザーバーの方などから、今回のワークショップについての意見を発表してもらい、閉会としました。



みんなで考えた 地域の不安と地域活動の課題

有明台小学校校区

平成 20 年 12 月 2 日 (火) 午後 7 時から
有明台小学校視聴覚教室にて
参加者：31 名

防 犯

- ・防犯灯を増設してほしい
- ・空き家があり不安
- ・高齢化が進んでいるので防犯委員にPTAの協力がほしい

道路や施設

- ・道路が狭いところが多い
- ・避難場所まで遠い
- ・公共施設の耐震化が不安
- ・無線放送等がほしい

地 域

- ・普段つきあいのないアパートや寮などがある
- ・民生委員が少なく要援護者支援が不十分である
- ・屋間に若者がいない

水 害

- ・水害が一番怖い
- ・雨が降るとすぐ冠水する箇所がある
- ・川沿いの道路排水を強化すべき
- ・自分の住んでいる所は海拔どれくらいあるのか表示してほしい

Aグループ



Bグループ



ふれあい

- ・あいさつがなくなってきた
- ・人を知ることが重要である
- ・アパートは人の入れ替わりが多くてコミュニティを形成しにくい
- ・町会のみとまりとしてアパート住民は協力しにくい
- ・災害時の連絡方法を決める必要がある
- ・防犯組織への情報連携が不十分である

地 震

- ・地震時の液状化が心配である

防災意識

- ・災害の記憶が風化している
- ・防災訓練の参加者が固定している

水 害

- ・堀割町5番地はよく浸水する
- ・大雨の際、水害ポンプはあるが停電時は心配である

交 流

- ・集合住宅の人たちとも交流が必要
- ・家が全焼したら誰が助けてくれるの
- ・隣の人の名前、顔が分からない
- ・ゴミだしの時に会う人の顔は分かる
- ・もっと女性を組織に入れた方がよい
- ・30歳~40歳の方が率先して動ける組織がない
- ・日常からの住民との会話が必要

要支援者対策

- ・日中の対応が問題である
- ・高校生は活用できないか
- ・救助の優先順位を決めておいたほうが良いのではないか

情 報

- ・情報の収集・伝達方法をしっかりする必要がある
- ・企業の方々との情報伝達と交流をしたい

Cグループ



避 難

- ・地震時の避難場所の確保
- ・公園を避難場所にできないか

避 難

- ・文京町には一時避難場所がないので地域内の公園を指定してほしい
- ・自宅周辺のどちらの避難所に避難すれば良いのか分からない

高齢者

- ・災害時に避難しようとしていない高齢者が多い
- ・高齢者が多く、自力で避難できない人が多いのでは

地域の情報

- ・アパートに住んでいる人への情報伝達が難しい
- ・災害・犯罪情報などの地域掲示板を店舗などに置かせてほしい
- ・個人情報に縛られている

Dグループ



交 通

- ・幅の広い道でも一方通行があり、無視する車もいて危険
- ・時間帯による車線変更は危険

松浜小学校区

平成 20 年 12 月 8 日 (月) 午後 7 時から
北出張所大ホールにて
参加者 19 名

みんなで考えた 地域の不安と地域活動の課題

地形

- ・川に囲まれている
- ・坂が多いので、雨が降ると低地に水が集中してしまう
- ・道が狭い

地震・津波

- ・液状化の問題が心配
- ・堤防破壊による浸水が心配
- ・新井郷川は危険ではないのか
- ・津波が川を逆流して破堤したりしないか

コミュニティ

- ・希薄化、疎遠化している
- ・アパートとの交流がない
- ・日中は大人が少ない
- ・家族との安否確認が心配
- ・隣に誰が住んでいるかわからない
- ・コミュニティの人材の高齢化
- ・会議参加者の固定化

外国人

- ・外国人との言葉の問題
- ・中国人が多い

Aグループ



Bグループ



0m地帯

- ・0m地帯であるとの認識が必要
- ・津波が一番心配
- ・堤防や砂丘の高さが心配
- ・二本の河川からの浸水が心配
- ・排水機能の強化

避難

- ・新潟地震の経験から、家族の集合場所を決めている
- ・低地が多いため避難場所の選定は難しいのではないかと
- ・避難方法に不安がある

地域活動

- ・防災リーダーが少ないので、地域全体として育成できない
- ・日中のひとり暮らしが多い
- ・外国人との対話が難しい

情報の伝達

- ・防災無線放送が聞こえにくい
- ・何mの津波が来るといった情報が欲しい
- ・独居世帯への伝達が心配

水害対策

- ・地震時の津波対策が心配
- ・集中豪雨の浸水対策が心配
- ・松浜海岸の侵食の問題
- ・避難場所がわからない

避難場所

- ・非常食が不十分なのではないか
- ・小学校が避難所となっているが大丈夫なのだろうか

外国人

- ・東港の外国人中古車販売業者（ロシア人）と周辺の防犯問題
- ・外国人（中国人）によるごみステーションのアルミ缶回収問題

その他

- ・化学工場があり不安
- ・飛行機の墜落が不安である
- ・児童の交通事故の心配
- ・松浜地区のみで本当に対応できるのか不安

Cグループ



Dグループ



内水

- ・排水が悪く年 3~5 回の出水がある
- ・水害に備えてゴムボートを準備することを検討している

ごみ

- ・特に秋口、自宅廻りの落葉の清掃をしない人が増えている
- ・ごみの分別とごみ出し日の周知徹底が難しい（特にアパート）
- ・新井郷川のごみ散乱、いざという時モラル低下で地域協力できるか

コミュニティ

- ・町会費をもらっているのに会報を配布しているが反応がない
- ・近隣とのコミュニケーションが取りにくい
- ・銭湯が減り、コミュニティの場がなくなった

高齢化

- ・高齢化により空き家が目立つようになってきた

亀田西小学校区

平成 20 年 12 月 9 日 (火) 午後 7 時から
江南区役所 302 会議室にて
参加者：23 名

みんなで考えた 地域の不安と地域活動の課題

水 害

- ・少し雨が降ると家の前が冠水する所が多々ある
- ・雨が降ると下水があふれる箇所がある
- ・道路冠水が心配

情 報

- ・町内で話はしているが、情報発信が不足
- ・自主防災でやっているが、災害時に情報が伝わらない心配がある

避難の問題

- ・地震時の 600 名の児童のパンニック防止対策と避難の問題
- ・避難所が周知されていない
- ・買い物客が避難所に来て混雑しそう

高齢者の避難

- ・要支援者の担当を決めたが訓練していない
- ・停電の時、認知症のお年寄りの記憶が役に立った。
- ・ひとり暮らしの人の家の電気がつかない時は心配

Aグループ



Bグループ



地 盤

- ・最近宅地開発された地域で住宅が傾いている

避難所

- ・避難場所の見直しが必要
- ・亀田第5保育園は浸水しやすい場所にある
- ・第5保育園の近くに4階建ての民間高齢者施設があるが、避難所にするには難しい

昼間の問題

- ・昼夜間人口比の地図のとおり、昼間は留守宅が多く人が少ない
- ・いざという時に昼間でも駆け込める場所を知りたい

組 織

- ・コミ協と自治会との連携強化が重要
- ・役職等の後継者の育成が必要
- ・自治会では、防災、防火、防犯の三防一体を考慮すべき
- ・人が少なくても稼働できるシステムが必要

水 害

- ・町内で、「ここは海拔0m」という表示があればよい
- ・亀田駅以外に高いビルが少ないので洪水の場合避難が不安

防 犯

- ・街灯が少ない
- ・セキュリティ過剰(となりが分からん)
- ・最近子どもを狙った犯罪も多く危険でパトロールの強化が必要

中学生の力

- ・中学生年代の力の発揮を

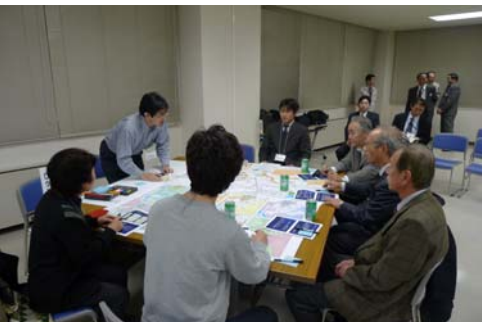
交 流 (お節介になろう)

- ・隣人同士の絆の再構築を
- ・もっと子どもとの交流機会を
- ・親同士も子育てを中心に交流を
- ・隣近所の人の家族構成も知るべき
- ・隣人同士で災害時の避難についてもっと話し合いを持つべき
- ・多世代間の交流が必要

Cグループ



Dグループ



災 害

- ・大雨時には必ず水があふれる
- ・排水路工事の不備なのか
- ・水害時マンホールから出水
- ・地盤が弱く地震が心配

中学生のパワーを借りよう

- ・中学生は地域の宝
- ・中学生を防災訓練に参加させたい
- ・小学生はあいさつをするが、中学生はあいさつをあまりしない

あいさつをしよう

- ・最後は“人”である
- ・学校、地域などの連携と避難訓練など行事の活性化が必要
- ・家庭と地域内でのあいさつが必要

行 政

- ・行政との役割分担の明確化
- ・行政の地域密着度
- ・行政からの財政支援が必要
- ・町内会長で地域は違う

第1回ワークショップにおける意見とりまとめ

有明台小学校区（古くからの住宅と商業施設が混在する人口密集地）

- ・有明台小学校区は、新潟市内でも高齢者・単身者の多い地域であり、災害が発生した場合の高齢者対策を中心に議論が進みました。
- ・地域内で、古い建物が多く狭い道も多いことから地震災害に対する不安が多く出されました。また、新潟地震の経験から、地盤の液状化に対する不安を話す人もたくさんいました。
- ・地域活動の点からは、アパートや寮に住んでいる人との交流がないことを課題として挙げていました。
- ・その他、停電や道路交通など、生活に関連した不安に関する意見が出されました。

松浜小学校区（工業地に隣接する住宅地で外国人比率が比較的高い地域）

- ・松浜小学校区は、地域内での標高差が大きく、大雨が降ると高いところから低いところへ一気に水が流れるため、低いところに住んでいる住民の方から、平成10年の8・4水害を例に出して水害が不安であるとの意見が出ました。
- ・堤防が古くなっているため、津波が一番不安であるとの意見がありました。松浜小学校区は、海と川に囲まれたゼロメートル地帯であることをはっきりと認識したほうがよいとの意見もありました。
- ・外国人とのコミュニケーションをとることが難しいという課題が挙げられていました。

亀田西小学校区（古くからの住宅と新興住宅が共存する郊外住宅地）

- ・亀田西小学校区は、全体的に標高が低く、水害に対する不安が多く出されました。
- ・亀田西小学校区は、9～10月に地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のための地区別フォーラムを実施していたためか、「あいさつをこころがける」、「中学生を地域の活動に巻き込みたい」など地域活動を活性化させるための具体的な議論が進みました。
- ・学校の先生からは、①校舎も体育館も耐震性に関して不安がある、②児童・生徒の安全な下校に関して不安がある、③教職員は地域外に居住している人が多く休校日に災害が発生した場合対応できない可能性が高い、という意見が出されました。避難所は必ずしも「安全な」場所ではないということを知ってほしいということでした。

第2回 安全安心なまちづくりワークショップ結果

地域コミュニティを活性化するための方法について考えよう！

【ワークショップの目標】

地域で様々な立場で活動している人に集まっていただき、地域が抱えている防犯・防災などの不安に対する課題や地域活動の課題を認識します。そして、最終的には「私たちのまちは地域コミュニティが強かったから、災害が発生しても犠牲者はゼロであった」、「新潟市に住んでいて良かった」と誇れる安全安心なまちづくりを目標にします。

【第2回ワークショップの概要】

- 第2回ワークショップでは、住民や小中学校教諭、地元企業（3地区合計 67名）が議論に参加したほか、警察、消防、区の職員もオブザーバーとして参加しました。
- 前回のワークショップの結果から、安全・安心なまちづくりのためには、地域活動と防災活動の組み合わせが必要であるため、各テーブルにおいて、多世代・多種多様な人々が継続的に楽しく参加したいと思う活動、その活動に参加したいと思わせる工夫について議論し、グループごとに意見を発表しました。

【第2回ワークショップの開催プログラム】

- ① ワークショップの目的について（3回の流れ）
- ② 第1回の結果報告、資料説明等
- ③ グループ作業
- ④ グループ発表
- ⑤ 全体のまとめ
- ⑥ 第3回ワークショップについて / 閉会挨拶

【全3回のワークショップスケジュール】

【第1回】 平成20年12月2日、8日、9日
わがまちの「安全・安心」を点検しよう！



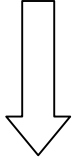
【第2回】 平成21年2月2日、3日、4日
地域コミュニティを活性化するための方法について考えよう！
～人と人が助け合い、支え合う「〇〇小学校区」づくり～



【第3回】 平成21年2月23日、24日、25日
〇〇小学校区の「行動計画」を作ろう！

第2回ワークショップの進行状況

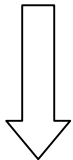
前回のWS結果報告



前回のワークショップで各地区の参加者から出た意見の概要が紹介され、自分が参加していない地区の意見も知ることができました。



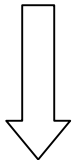
事例紹介(アンケート結果、先進事例)



新潟市で実施された安全・安心に関する市民アンケートの速報結果や全国の先進的な地域活動例が紹介され、これから行う議論のための参考としました。



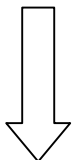
作業の進め方について説明



どうしたら地域活動に参加し、防災・防犯の意識が高くなるかについて、7つの取組みの視点が提示されました。今回議論する点は、①多世代・多種多様な人々が継続的に楽しく参加したいと思う活動、②その活動に参加したいと思わせる工夫についてです。



グループ作業



A～Dグループに分かれて、わがまちでどのような地域活動が行われているか、活性化させるための工夫は何かについて自分の意見をカードに書いて模造紙にはり、他の人と似たようなテーマの意見のグルーピングを行いました。



グループ発表

各グループから発表者をひとり選んで、それぞれのグループで出された意見を発表しました。各グループの考えをワークショップ参加者全員で共有することができました。



みんなで考えた 地域活動の内容と活性化のための工夫

有明台小学校校区

平成 21 年 2 月 2 日（月）午後 7 時から
有明台小学校視聴覚教室にて
参加者：21 名

活動内容

- ・防災訓練や防災運動会を実施している
- ・閑屋六階節など文化継承活動を実施している
- ・町内クリーン作戦では、70～80 名がいっせいに清掃を行う
- ・他にお楽しみ会や餅つき会がある

工夫

- ・ゼロメートル地帯の人は必ず出してもらう
- ・学校や企業の屋上に上げてもらう
- ・女性は「バザー」という言葉が大好き
- ・資金集めが必要（廃油回収）
- ・委託事業の活用
- ・行政は立ち上げ時だけでなく、継続するための支援をすべき

Aグループ



Bグループ



活動内容

- ・父親が夜間参加する天体観測、きもだめし大会
- ・事業所の人でも地域を知ることができるようなマップの作成
- ・写真で自分の一番好きな場所（地区）を展示会で発表
- ・防災運動会

工夫

- ・ポイントを集めて企業のポイントに換えられる工夫
- ・子どもと両親を一緒に呼べるように両親が良いと思う企画をつくる
- ・若者達に参加したいと思われる行事を知るためにアンケートを実施する
- ・一年間の活動計画を目的別に一覧で作成し、案内を出す

活動内容

- ・町内会ごとの行事を作る
- ・母親を集める活動
- ・春と秋に実施される校区の祭
- ・防災運動会（小・中学校）
- ・PTAによるサマーキャンプ
- ・ふれあいスクール

工夫

- ・インターネットなどで情報提供することにより、欲しいときに欲しい情報が入手できるようにする
- ・各世代の人に魅力がある（食べる、作る、見る、体験する、選べる、参加できる）
- ・各世代の人が企画に参加する（できるだけそれらの意見が反映、分担、分ける etc）

Cグループ



Dグループ



活動内容

- ・海岸清掃
- ・病院で、無料の応急手当講習
- ・防災に関するクイズ大会（景品つき）
- ・家族で参加できる活動（ファミリークリーン作戦）
- ・アルビレックス応援やSL見学、料理教室など、それ自体楽しめる活動

工夫

- ・学校と地域が個別に実施している海岸清掃の合同実施
- ・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意する
- ・国勢調査の戸別訪問を活用して、各家庭にどのような人が住んでいるか把握したいが・・・

松浜小学校区

平成 21 年 2 月 3 日（火）午後 7 時から
北出張所大ホールにて
参加者 23 名

みんなで考えた 地域活動の内容と活性化のための工夫

活動内容

- ・町内会単位で夏休みに地引網のイベントを行い、つかみ取り、宝探しの企画を行う（外国人から地引網体験の要望がある）
- ・町内清掃ハイキング
- ・海岸清掃
- ・海辺の森キャンプ
- ・ラジオ体操祭や日帰り旅行などを実施している

工夫

- ・参加者を固定させないため、回覧を回して情報を流している
- ・学校の文化祭を活用して学校と地域が交流する
- ・中学生に祭の山車をつくってもらうなど、学校から地域まで生徒に来てもらう
- ・育成協とコミ協の協働
- ・町内の知り合いの参加
- ・参加することによる楽しみ

Aグループ



Bグループ



活動内容

- ・松浜祭で、子供がみこしをかついで町内を巡回する
- ・盆踊り大会
- ・独居高齢者への友愛訪問
- ・下水道掃除
- ・不用品の交換会
- ・元旦マラソン、町内運動会（昔はやっていた）

工夫

- ・行政からも参加を呼びかける
- ・町内の人が一人居ても出ていると行きやすいので、各町内から一人は必ず出席してもらう
- ・楽しみがないと人は来ないので、豚汁、芋煮を提供したり、町内対抗バケツリレーゲーム等を行う
- ・公共施設を使いやすくしてほしい
- ・広報誌の工夫が必要

活動内容

- ・町内会対抗野球大会
- ・手作りイカダレース
- ・松浜祭、子どももちつき大会
- ・町内で老若男女が集まり、カラオケ大会
- ・青空バザール
- ・芸能発表会、運動会
- ・コミ協が主催して3年目の青空お茶のみ会

工夫

- ・「何かあったときに助けない」などの危機意識を与えることで防災訓練などに参加してもらう
- ・小学校の連絡網をうまく使う
- ・情報は分かりやすいように要点を絞って伝える
- ・景品を用意して人を集める

Cグループ



Dグループ



活動内容

- ・自分の故郷や会社などを紹介する（松浜地区は新規住民が多い）
- ・習字など自分の特技を披露する
- ・地域の運動会
- ・ゴミ拾い後の交流会
- ・餅つき大会、バーベキュー大会、地引網など食べ物に関するイベントを行う
- ・子供（吹奏楽部）が振込詐欺防止の寸劇をやる

工夫

- ・催事の準備を通して交流
- ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教える
- ・大人子供が参加する抽選会
- ・町内どうしの対抗
- ・若い人が多い消防団の活用
- ・児童公園の利用
- ・活動を欲張らない
- ・資源回収で資金調達（婦人部会）

亀田西小学校区

平成 21 年 2 月 4 日（水）午後 7 時から
江南区役所 302 会議室にて
参加者：23 名

みんなで考えた 地域活動の内容と活性化のための工夫

活動内容

- ・スポーツ振興会が、年 3 回ほど、ソフトバレー、太極拳、ソフトテニスの大会を実施している
- ・夏祭り、町内ハイキング
- ・子供たちの地域見学
- ・いきいきサロン（地域の茶の間）で、親子、祖父母と孫が参加している
- ・PTA が、プール開放を通して地域と子どもをつないでいる

工夫

- ・公園清掃、廃品回収に子どもも参加してもらい、ついでに親にも来てもらう
- ・2つのルートで呼びかける
- ・アパートの人にも表札くらいは出してもらいよう戸別依頼
- ・中学生に子どもの世話をするなど地域の役割を与える
- ・いきいきサロンの活用
- ・男性の役割、目的の植え付け
- ・回覧伝達後のアンケート

Aグループ



Bグループ



活動内容

- ・町内友好祭、年に 1 回各サークルの発表会
- ・西小フェスティバル（学校行事）
- ・四区文化祭で作品展
- ・秋祭りに連動して区の子ども祭りを実施
- ・PTAバザー
- ・町内バーベキュー
- ・町の名所めぐり散歩

工夫

- ・部活など若い人の含まれる団体そのものに呼びかける
- ・囲碁や将棋を教えることで、高齢者の文化祭に若い人を呼び込む
- ・既存の施設を利用し、子どものたまり場をつくり、地域の人が出向く
- ・江南区便りの亀田版を発行し、学校に地域活動の掲示板を置いてもらう

活動内容

- ・中学生への救急法講習会開催
- ・中学生が自治会と協働して防犯パトロールに参加し、散歩者、小学生等とあいさつ
- ・小学生が亀田甚句、樽たたきなど郷土芸能の練習
- ・地区対抗の運動会、雪合戦
- ・どんと焼き、ふれあい教室
- ・地域のマップを作り町の中に張り出す

工夫

- ・中学のクラブ活動の一環で地域の防災訓練に参加してもらう
- ・地域活動で無理をしないように、買い物の途中に防犯パトロールと一緒にやる
- ・参加賞品で人を寄せる
- ・子供が参加できる体験型イベントの実施
- ・小学校のクラブ発表会を地域で開催する

Cグループ



Dグループ



活動内容

- ・文化祭で展示を行う
- ・自治会ハイキング
- ・町内まつり、先だいこ、甚句流し
- ・桜花見の会、友交祭
- ・NPO 福祉“しゃべり居間”の活用
- ・いきいきサロンの活用
- ・交通安全活用、下校パトロール
- ・元旦マラソン、町主催ハイキングは昔は実施していた

工夫

- ・小学生を中学生が守るような取り組みを行う
- ・亀田製菓と連携して工場見学を行う
- ・商店街と連携して地域に割引券を出してもらう
- ・父親の引きこもりを防ぐ
- ・中学生の部活を活用
- ・あんまり無理をしない

第2回ワークショップにおける意見とりまとめ

有明台小学校区（古くからの住宅と商業施設が混在する人口密集地）

- ・有明台小学校区は、新潟市の中心部近くにあるため事業所が多く、事業所の人たちにも地域のことを知ってほしい、企業の所有するビルの屋上に上げてほしい、病院として無料で応急手当講習をできるか、といった意見が出されました。
- ・地域活動に人を集めるためには、ポイントや景品で「釣る」のがよいとの意見が出されましたが、景品ばかりに目がいて、安全・安心について地域で考えるという本来の目的を忘れてはいけないという意見も出されました。
- ・アルビレックス応援やもちつき大会など、それ自体楽しめる活動も多く挙げられました。

松浜小学校区（工業地に隣接する住宅地で外国人比率が比較的高い地域）

- ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教えるなど、防災を前面に出すのではなく、「それ自体が楽しい」イベントにさりげなく防災要素を組み込むのがよいとの意見が出されました。
- ・松浜地区は新規住民が多いため、自分の故郷や会社などを紹介したり、習字や詩吟など自分の特技を披露する場を設けることが交流の拡大に良いのではないかという意見が出されました。
- ・学校の生徒が振込詐欺防止の寸劇をするなど、子どもが地域貢献をしている事例がありました。

亀田西小学校区（古くからの住宅と新興住宅が共存する郊外住宅地）

- ・公園清掃、廃品回収に、学校と地域が共同して実施し、子どもも参加してもらうことでついでに親にも来てもらい、参加層を拡大させることができるのでは、という意見が出されました。
- ・中学生に子どもの世話をするなど地域での役割を与えることで、中学生を地域活動に巻き込もうという意見が出されました。
- ・若い人への個別参加依頼は難しいので、部活など若い人の含まれる団体そのものに呼びかけるのがよいという意見が出されました。
- ・学校内に地域活動の掲示板を置かせてもらい、地域に子どもを呼び込むほかに、学校の近くの児童館などの子どもの「たまり場」をつくってそこに地域が入っていく方法もあるとの意見が出されました。
- ・亀田製菓など、周辺の企業の工場見学を企画してはどうかとの意見が出されました。

第3回 安全安心なまちづくりワークショップ結果

〇〇小学校区の「行動計画」を作ろう！

【ワークショップの目標】

地域で様々な立場で活動している人に集まっていただき、地域が抱えている防犯・防災などの不安に対する課題や地域活動の課題を認識します。そして、最終的には「私たちのまちは地域コミュニティが強かったから、災害が発生しても犠牲者はゼロであった」、「新潟市に住んでいて良かった」と誇れる安全安心なまちづくりを目標にします。

【第3回ワークショップの概要】

- 第3回ワークショップでは、住民や小中学校教諭、地元企業（3地区合計66名）が議論に参加したほか、警察、消防、区の職員もオブザーバーとして参加しました。
- 前回のワークショップでは、多世代・多種多様な人々が継続的に楽しく参加したいと思う活動、その活動に参加したいと思わせる工夫について議論しました。その結果をもとに、来年度から実施可能な地域活動について、具体的にいつどこで誰がどのように実施するかを企画し、グループごとに発表しました。

【第3回ワークショップの開催プログラム】

- ① ワークショップの目的
- ② 第2回の結果報告、資料説明等
- ③ グループ作業
- ④ グループ発表
- ⑤ 全体のまとめ
- ⑥ その他 / 閉会挨拶

【全3回のワークショップスケジュール】

【第1回】 平成20年12月2日、8日、9日
わがまちの「安全・安心」を点検しよう！



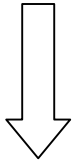
【第2回】 平成21年2月2日、3日、4日
地域コミュニティを活性化するための方法について考えよう！
～人と人が助け合い、支え合う「〇〇小学校区」づくり～



【第3回】 平成21年2月23日、24日、25日
〇〇小学校区の「行動計画」を作ろう！

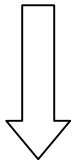
第3回ワークショップの進行状況

前回のWS結果報告



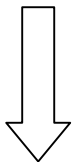
前回のワークショップで各地区の参加者から出た意見の概要が紹介され、自分が参加していない地区の意見も知ることができました。

作業の進め方について説明



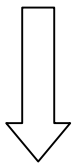
来年度から実施可能な地域活動について、具体的にいつどこで誰がどのように実施するか企画するための流れを説明しました。

活動内容の選択



前回のWSで挙げられた活動内容から、自分たちがやってみたいと思うものを3つ選びました。“活動メンバーの固定”などの問題がある地域活動に“防災・防犯”の要素を取り入れ、①地域の人を集め、②今すぐでき、③地域で盛り上がることを選定の視点としました。

行動計画の作成



選んだ活動内容について、いつ、どこで、誰が、どのように実施するかを決めます。住民全員参加を目指し、自分たち自身が活動する計画とします。この結果は、各小学校区の行動計画として、全国に発信されます。(右の写真が実際の行動計画です)

グループ発表

各グループから発表者をひとり選んで、それぞれのグループで出された意見を発表しました。各グループの考えをワークショップ参加者全員で共有することができました。



有明台小学校区
 平成21年2月23日(月)午後7時から
 有明台小学校視聴覚教室にて
 参加者：24名

第3回ワークショップ
みんなで考えた
有明台小学校区の行動計画

Aグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・コーディネーター、リーダーの育成 ・防災運動会、防災訓練 ・母親を集める活動	・9月27日(日)	・有明台小学校	主催 ・有明台校区自主防災会 ・有明台小学校区コミュニティ協議会 参加者 ・地域住民 支援 ・新潟市 ・新潟市中央区 ・消防団、消防署 ・防火連合・防犯協会・安全協 ・民主協・婦人会 ・スポーツ振興会	・子どもに視点を向けた防火訓練 ・防災駅伝ゲームを試みる ・おじいちゃん、おばあちゃんを守るために、 <u>君たちは何ができますか</u> (防災くんれん)啓発ポスター ・健康のテーマや検診を取り入れるなど工夫(妊婦、検診など) ・防災や防犯のセミナーフォーラム、研修等の開催、啓発(防災教育) ・ゼロメートル地帯の人★必ず出してもらう ・学校や企業の屋上★上げてもらい、地域を知る・時間を短くして参加しやすくする ・★だけでなく、焼そば、豚汁など提供	・水害が一番怖い ・災害の記憶が風化している ・日常からの住民との会話が必要である ・避難しようとしにくい高齢者が多い ・液状化が心配である ・どちらの避難場所に避難すればいいかわからない ・防災訓練の参加者が固定している ・雨が降るとすぐ冠水する場所がある・災害時の連絡方法を決める必要がある
・清掃活動 ・母親を集める活動	・4月5日(日) 9月6日(日)ごろ ・8月23日(日)ごろ ・7月(小学校)平日	・校区全域 主に信濃川河畔 関屋分水河畔 ・関屋中学校裏 海岸清掃 ・1区自治会	主催 ・有明台小学校区コミュニティ協議会 主催 ・関屋大川前一区自治会 参加者 ・一区自治会町民 参加者 ・有明台校区住民	・学校と地域が個別に実施している海岸清掃の合同実施 ・回覧板だけでなく、 <u>学校PTAにも呼びかけ</u> ちらしの配布 ・子どもに参加費を出すなど(宝もの探しなど取り入れる)	・世代交流 ・子どもの環境衛生の関心度を高めて(環境教育) ・ひがん花の植栽を同時に!
・母親を集める活動 ・お楽しみ会&餅つき会	・11月15日(日) ・12月6日(日)ごろ	・有明台小学校 ・同上	主催 ・関屋大川前一区自治会 主催 ・有明台小学校区コミュニティ協議会 参加者 ・有明台小学校区 住民 参加者 ・一区自治会 町民	・子どもの参加可能なイベントを考える <u>中学校 高校生の参加</u> (ダンス部呼びかけ) ・バザーの実施(女性は「バザー」という言葉が大好き) ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり(食べる、作る、見る、体験する、選べる) ・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意 ・子どもと両親と一緒に呼べる企画づくり	・世代交流 ・文化・伝統の継承 ・子どもの素顔が見える(地域住民の応援隊。学校生活が見えて喜ばれる) ・工夫することによって(創作活動)地域の大人とのふれあいが増す

Bグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・防災運動会 ・防災検定	・秋(9月～10月) 1回/年	・有明台小学校 (グラウンド)	活動主体 ・自主防災会(コミ協) ・スポーツ振興会 参加者 ・一般 ・小学生、中学生 ・事業所 支援者 ・ヤマダ電機さん他地域内の事業所 ・学校、PTA ・消防、警察	・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意 ・行政は、立ち上げ時だけでなく、継続するための支援をする ・各世代の人による企画づくり(例えば、PTAの方に主体的に参加して頂く) ・チーム(町内)対抗で盛り上げる ・地元企業から協賛を募る ・防災博士号(認定書)を授与することによって、防災知識の高揚につなげる ・声掛けで参加者を募る ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり(食べる、作る、見る、体験する、選べる)	・防災訓練の参加者が固定している ・避難しようとしにくい高齢者が多い ・あいさつが少なくなってきた ・液状化が心配である ・どちらの避難場所に避難すればいいかわからない ・水害が一番怖い ・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない ・雨が降るとすぐ冠水する場所がある
・地域の写真 ・発表会	・秋(11月頃) 小学校の文化祭とあわせる 1回/年	・有明台小学校 (体育館)	活動主体 ・自主防災会 ・PTA 参加者 ・小学生、中学生 ・地域内の愛好家 支援者 ・ヤマダ電機様	・文化祭と同時開催することにより、多くの参加者 ・展示会後に(優秀作品)はヤマダ電機に展示してもらう ・第一高校の写真部に呼びかける ・年代別に賞を設ける ・自治会が地元の愛好家に声をかける	・災害の記憶が風化している ・高校生を活用する必要がある ・地域をよく知らない方に、地域を知ってもらう ・アパートの人のことを知らない ・日常からの住民との会話が必要である
・お楽しみ会 ・もちつき大会					

Cグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・父親、母親が参加する運動会	・9月	・有明台小学校	主体 ・学校 ・地域コミュニティ協議会	・地域にはイベントを運営するノウハウはある ・父親と母親を呼ぶ ・地域マップの配布 ・運動と健康 ・健康診断 メタボ検診 ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり(食べる、作る、見る、体験する、選べる)	・日常からの住民との会話が必要である ・あいさつが少なくなってきた ・防災訓練の参加者が固定している ・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない
・地域全体のサマーキャンプ +きもだめし +文化活動	・7月下旬	・有明台小学校	参加 ・地域住民 ・児童生徒 支援者 ・医療検査機関 (or 医療機関) ・消防署	・母親の負担をへらす 朝ごはんをアルファ米 ↓ お年寄りを活用 ・ケガとか心配なため、ボランティアを募集 ・子供100人以上 → 親30人以上 ・子どもと両親を一緒に呼べる企画づくり ・料理人を活用 ・高校生への広報 → 活用	・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない ・高校生を活用する必要がある
・子供教育地域マップの作成 ○有明台の歴史マップ ↓ 街の発展 ○地域の危険な所の写真展(防犯・防災) ○子供教育 地域マップの作成	・10月	・有明台小学校	・警察	・地域安全DVDの作成(いつでも、何度でも見れる) ・防災運動会で活用 地域防災マップを“下敷きにする” ・文化祭の活用(歴代の写真、アルバム) ・古い写真の提供 ・創立記念日に作成したDVDがよかった(昔の有明台) ・今までのノウハウを使う	・災害の記憶が風化している ・災害や犯罪情報などについて、地域掲示板を店舗などに置かせて欲しい ・お年寄りの所まで子供が出向き、清掃活動と防災・防火パトロール ・薬師神社の祭 春→民謡 秋→関屋六階節

Dグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・防災運動会	・10月末(年1回) ・午前中から昼食にアルファ米	・小学校	・自主防災会が主催(午前)	誘い合う ・中学生にアルファ米おかわり競争 ・危ないことはさせない(子どもにケガさせないように保険に入る) ・車をまわして高齢者を集める ・3人1組(友達を誘い合う)などグループで参加する ・大人と子どもで3人を1グループとして参加してもらう ・チーム対抗 現状:町内会単位 ・子どもと両親を一緒に呼べる企画づくり	・アパートの人のことを知らない ・日常からの住民との会話が必要である
・清掃活動	・年1回 秋の公園清掃	・公園	・全町内会にて一斉に	・腰かけを用意する(高齢者のために)	
・母親を集める活動				人が集まる場所から ・進学など子供に関する情報提供をする ・幼稚園には母親がたくさん集まる。そこに防災の専門家が講習を行う ・まずは母親に地域活動を知ってもらい、父親を動かしてもらう	・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない

松浜小学校区

平成 21 年 2 月 24 日 (火) 午後 7 時から
北出張所大ホールにて
参加者 16 名

第 3 回ワークショップ みんなで考えた 松浜小学校区の行動計画

A グループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・地引網 ・合同	・7 月最後の日曜日	・海岸	・町内会 ↓ ・育成協、コミュ協 ・松浜自治振興会	・市の予算で地域の掲示板 ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教える ・催事の準備を通して交流 ・人が来れば防犯につながる ・若い人が多い消防団の活用 ・地域外の人と呼ぶ ・回覧板の充実 ・海の危険性を教える ・イベントの日“花火”	・ゴミが散乱している モラルの低下? ・外国人との言葉の問題 (コミュニケーション) 留學生が参加している ・地震時の津波が心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化
・松浜祭 ・盆踊大会	・8 月 24 日、25 日 ・8 月 17 日	・稻荷神社 ・商店街	・商工会 ・本町 1, 2 商店街	・鎮守まで人を呼ぶにはスタンプラリー ・祭りのコーディネーターが必要 ・観客席を作る ・小学校の連絡網をうまく使う ・運営資金を集める ・民謡を流す ・運営 (仕方) も工夫する必要あり ・中学生に祭りの山車をつくってもらい ↑ 予算を出すから出してみないか	・コミュニティの希薄化、疎遠化
・小・中学生 ・あいさつ運動					

B グループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・町内で老若男女が集まり何かの大会 町内運動会 元旦マラソン ソフトボール大会 (昔はやっていた)	・春と秋 ・春と秋 2 回	・中学グラウンド→ (避難場所) 高い所にあるので (小学校は少し低い所にある) ・コミュニティセンター ↓ 北地区スポーツセンター	・自治会長が呼びかけ ・主催はコミュ協 ・青年部 ・消防団	・町内対抗バケツリレーゲーム等を行う ・地域にとけこむ先生がいると、小・中学生も呼びやすい ・育成協とコミ協の協議 ・小学校の連絡網をうまく使う ・若い人が多い消防団の活用 ・広報誌を工夫する ・催事の準備を通して交流 ・自治会が地域の人の能力を引き出す ・楽しみとなる企画作り (景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会)	・地域全体での防災リーダー育成が必要 ・会議参加者が固定化している
・清掃活動とイベントを合わせて実施	・海岸清掃は「海の日」(7 月の第 3 月曜) ・町内一斉清掃 毎月 1 回 ・公園清掃 毎月か 2 ヶ月に 1 回 ・下水清掃 5~10 月 毎月か 2 ヶ月に一回	・海岸 ・自治会館 イベント ・公園 清掃後イベント ・コミュニティセンター (イベント) ・空き地 防災テント	・主催 自治会 ・町内全員 (対象者) ・支援者 北区役所 ゴミ袋 建設課 収集	・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教える ・海岸清掃と防災キャンプを一緒にやる ・広報誌を工夫する ・楽しみとなる企画作り (景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会) ・活動内容を詰め込みすぎない企画 (大事) づくり ・清掃 アルファ米のたきだし ・カレー 豚汁 ・アパート主に参加呼びかけを頼む ・危険な場所の情報交換	・落ち葉の清掃をしない人が増えている ・ゴミが散乱している モラルの低下? ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・アパートと交流がない ・児童の交通事故が不安 ・地震時の津波が心配
・青空サロン	・月 1 回	・松浜園の下 (工事中だが終わったら使わせてもらえる) ・市場通り	・コミ協福祉部 (主催) ・買い物に来る近隣住民 (参加) ・松浜園 (老人ホーム) (支援) ・部活帰り中学生 ・地区外の人もある ・コミ協 (支援)	・雨でもつかえる場所 ・コミ協から新しいテーブルとイスの用意 ・もっと PR ・危険な場所の情報交換	・独居世帯に情報が伝わるか心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・アパートと交流がない ・児童の交通事故が不安 ・地震時の津波が心配

Cグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・松浜祭	・8月1回/年	・松浜小学校区全体	活動主体 ・それぞれの自治会 ・松浜稲荷神社 ・北新潟商工会 参加者 ・全員だけど特に、地域を離れた子どもや家族 支援者 ・中学生 ・警察の方 ・商店街、企業	・中学生に祭りの山車をつくってもらおう ・催事の準備を通して交流(みこしを皆でつくる) ・高齢者が楽に見て参加できるスペースを確保する(車イスのスペースなど) ・ひとり暮らしの高齢者を誘って参加してもらおう ・広報誌を工夫する	・独居世帯に情報が伝わるか心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・若い世代の参加が増える
・防犯・防火パトロール	定例は12月1回/年 ↓ 近い将来は1回/月	・松浜小学校区全体	活動主体 ・自治振興会 ・コミュニティ協議会 ・育成協 参加者 ・各自治会の防犯員 ・コミ協、育成協のメンバー ・昼間に地域にいる人 支援者 ・自治振興会自身 ・警察の方や消防の方	・自治振興会、育成協とコミ協等の協働 ・小学校の連絡網をうまく使う ・小学校の登下校にあわせて実施する ・若い人が多い消防団の活用 ・町内の人がいれば行きやすいので、各町内から一人は必ず出席	・中国人やロシア人の防犯問題 ・犯罪の不安や出火の心配が解消 ・地域全体での防災リダ育成が必要 ・松浜地区だけで対応できるのか不安
・青空バザール +カラオケ大会 +その他	・夏と秋7月、10月2回/年	・松浜商店街 + 松浜小学校グラウンド	活動主体 ・商店会 ・コミ協も参加 参加者 ・全員 支援者 ・自治振興会	・楽しみとなる企画作り(景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会) ・公共施設を使いやすくする ・学校を活用する	・多世代の参加者が増える

Dグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・若い人が参加したいと思うような行事をアンケートで調べる ↓ ○野球大会 ○将棋大会 ○麻雀大会	・春休み試験が終わる頃	・アンケートで決める	・コミ協	・若い人を集める ↓ ・集まってもらったら5分でよいから、防犯・防災の話を	・地域のイベントの参加者が固定化している
復活 ・盆おどり 踊りを覚えて発表会 子供は一時間くらいでおどりを覚える ・子どもだっこ(松浜だっこ文化継承)	・年1回 夏 ・2日続けて ・盛り上がっている時に終わりにならないように時間はたっぷり(夜11時まで)	・学校のグラウンド(なかなか貸してくれない) ・1日目:小学校 2日目:中学校	・育成協とコミ協の協働 ・地方に共同主催をお願いする(謝礼はするが...) ・盆おどり保存会 松浜だっこ保存会	・不用品の一品寄付を参加費にする ・苦情(うるさい)が来ないように周辺住民には○事前をお願い ○地域の旅行に行ってもらおう ・盆おどりが終わったらグラウンド清掃、ローラーかけ ・学校を会場にすれば、卒業生が集まりやすい ・学校に協力してもらおう ・子どもがケガをしないように ・祭のときに育成協が防犯パトロール ・祭のときに防犯・防災の実践活動 ・祭のあとでみんなで後片付け(学校はみんなの施設)	・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・外国人との言葉の問題(コミュニケーション)
・ラジオ体操祭 +バーベキュー	・年1回 夏 日曜	・学校	・700~800人集まる 親子で来れば倍	・生ビール販売の収益を資金源とする	
・青空バザーで、バザー不用品交換会					

亀田西小学校区

平成 21 年 2 月 25 日 (水) 午後 7 時から
 江南区役所 302 会議室にて
 参加者：26 名

第 3 回ワークショップ

みんなで考えた

亀田西小学校区の行動計画

A グループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会 ・ソフトテニス ・太極拳 ・新たに運動会を復活! 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に 5, 6 回の種目別教室 ・地区運動会は年 1 回、秋? 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の体育館 ・西中学校区と東中学校区、合同で。 ・アスパーク(でやりたい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催 スポーツ振興会(体育指導員) ・(種目によりちがう) 子ども~70 才台 ・小学校の学校開放の団体に手伝ってもらっている ・今は 6: 4 で女性が多い ・1 学校区(中学)で 10 万円の補助金 ・地域コミ協にも入ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加費(100~200 円)商品出す(★) ・参加商品で人を集める ・自治会長経由で周知してる ・14 自治会で協力。対抗戦も 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代間の交流が必要である ・隣人同士の絆の再構築が必要である ・親同士も子育てを中心に交流が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・地域見学 ・工場見学、名所巡り 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に 1, 2 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防、警察を見学 ・亀田製菓(今は小学 5 年生がやっている) ・ショッピングセンター ・市場、お寺、梨畑 ・地元の資料館 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校(主) 工場や地域(支援)を回る時は父母のボランティア ・子ども達 ・土地改良区(歩け歩け大会をやっている) ・大人がボランティアで見守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀田製菓と連携して工場見学を行う ・小学校の授業(クラブ)発表会を地域の人を呼んで開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代間の交流が必要である
<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り 	<ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回 お盆前後 ・一日の所と 2 日間の所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・神社 ・公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催 神社の氏子 ・主催 自治会 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性に役割、目的を植え付け、父親の引きこもりを防ぐ ・盆おどりは景品出してる ・中学生に役割をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は地域の宝である

B グループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・地震車、はしご車、非常食の試食 	<ul style="list-style-type: none"> ・6 月 7 日(今年で 3 回目) ・10: 00 ~ 12: 00 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協が主催 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する魅力づくり ・中学のクラブ活動の一環で地域の防災訓練に参加してもらおう →救助隊の体験(救護服を着るなど) ・スポーツ団体など若い人が含まれる団体そのものに呼びかける ・中学生に子どもの世話をするなど地域の役割を与える ・起震車、はしご車など子供が参加できる体験型イベントを実施する ・人気のある起震車で整理券配布→役割をつくってみんなで参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を防災訓練に参加させたい →600 名児童の避難が不安である →要支援者は決めたが、訓練していない
<ul style="list-style-type: none"> ・下校パトロール+あいさつ運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期の隊と不定期の隊 ・下校パトロールは今年で 4 回目 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路 ・イオン巡回(育成協) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールは 12 団体ある ・うち 6 隊は定期的にパトロール 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつのできる地域に ・子どもと地域の人と一緒にパトロール ・子どもと地域の大人が危険箇所を点検 ・まずは大人からあいさつして模範を示す ・知らない人にもあいさつ(地域差が大きい) ・登下校の時に家の前に立って子供とあいさつ ・地域の道徳話を、江南区だよりに載せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつのできる地域に ・子どもへの犯罪が多くパトロールが必要
<ul style="list-style-type: none"> ・どんと焼き ・プール開放 ・コミ協が協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年続けて 			<ul style="list-style-type: none"> ・学校に地域活動の掲示板を置いてもらう ・既存の施設を利用し、子どものたまり場をつくり、地域の人がそこに出向く ・江南区だよりの亀西版を発行する ・プール開放の監視役にコミ協 	

Cグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・祭り どんど焼き 菖旬流し 地域大運動会 桜花見の会	4回／年 四季	・どんど焼き →西小グラ ンド脇田 んぼ ・菖旬流し →本町通り ・桜花見の会 →亀田公園	活動主体 ・自治協議会 ・コミ協 ・PTA ・老人会 参加者 ・全員だけど特に若者の参加 支援者 ・商工会 ・亀田製菓 ・社会福祉協議会	・参加商品で人を集める ・男性に役割、目的を植え付け、父親の引きこもりを防ぐ ・部活など若い人が含まれる団体そのものに呼びかける ・子供が参加できる体験型イベントを実施する ・仮装して参加しても良い工夫 ・最後は“人”である	・多世代間の交流が必要である ・セキュリティが過剰で隣がわからない ・隣人同士の絆の再構築が必要である
・防犯パトロール +清掃活動 +下校パトロール	3回/週 +1回/月 +1回/週 4.25回/週	・地域全体 (亀田西小学校区)	活動主体 ・防犯組合 ・民生委員 ・各自治会 ・隣組 ・自治協議会 参加者 ・中学生、小学生	・中学生に子どもの世話をするなど地域の役割を与える ・大人、中学生、小学生が班をつくって活動する工夫 ・買い物の途中に防犯パトロールを実施。防犯チョッキを身につける ・学校に地域活動の掲示板を置いてもらう ・活動主体にどのくらい中学生や小学生の親が属しているのかをまず知ることから ・公園清掃、廃品回収に子どもも参加してもらうついでに親にも来てもらう ・小学生を中学生が守るような取組みを行う	・中学生は地域の宝である ・いざという時に駆け込める場所を知りたい ・行政からの財政支援が必要である ・ひとり暮らしの家の電気がつかない時は心配である
・いきいきサロン	1回/月	・各自治会の集会所	活動主体 ・民生委員 参加者 ・高齢者 ・主婦	・いきいきサロンを活用 ・囲碁や将棋を教えることで、高齢者の文化祭に若い人を呼び込む ・防災や防犯の講習会を実施	・親同士も子育てを中心に交流が必要
・防災訓練	1回/年	・西小学校	活動主体 ・コミ協 参加者 ・全住民(中学生に参加させたい)	・中学のクラブ活動の一環で地域の防災訓練に参加してもらう ・要援護者訓練を取り入れる	・要援護者は決めたが、訓練していない ・消火栓の場所がわからない方がいる ・中学生を防災訓練に参加させたい

Dグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・防災訓練 +バザー	・6月7日	・亀田西小学校	・コミ協 ・中学生全員 ・地域住民 ・区役所、消防、警察 ・中学校	・企業にも掲示板を作ってもらおう ・江南区だよりの亀西版を発行する ・学校に地域活動の掲示板を置いてもらう ・サッカー部 ・参加商品で人を集める ・中学のクラブ活動の一環で地域の防災訓練に参加してもらう ・子供が参加できる体験型イベントを実施する ・午前中だけで実施	・多世代間の交流が必要である ・隣人同士の絆の再構築が必要である ・行政からの財政支援が必要である ・行政の地域密着が必要である ・最後は“人”である ・屋間は留守宅が多く、人が少ない ・中学生は地域の宝である ・中学生を防災訓練に参加させたい
・工場見学 +名所巡り	・秋	・江南区	・コミ協+PTA ・地域住民 ・企業	・中学二年生の職場体験の活用 ・加島屋 ・亀田製菓と連携して工場見学を行う ・各所マップの活用 ・地域の歴史、地域を知る	・多世代間の交流が必要である ・隣人同士の絆の再構築が必要である ・行政からの財政支援が必要である ・行政の地域密着が必要である ・最後は“人”である ・親同士も子育てを中心に交流が必要 ・いざという時に駆け込める場所を知りたい
あんまり無理をしない					

第3回ワークショップにおける意見とりまとめ

有明台小学校区（古くからの住宅と商業施設が混在する人口密集地）

- ・ 中心市街地周辺として学校が多く、また市内でも比較的高齢化率が高いためか、幅広い世代に防災訓練への参加を促すことが必要であるとの意見が出されました。中学生など若い人を呼び込むためには、アルファ米おかわり競争や景品を用意した防災クイズ大会など魅力的で楽しい企画づくり（「食べる」、「遊ぶ」が重要）をし、高齢者を呼び込むためには、会場にベンチを設置したり家までの送迎をするなど配慮をすることが提案されました。
- ・ 人を集めるのではなく人が集まっているところに出向くことが効果的だという意見が出されました。その例として、進学に関する説明会にはたくさんの母親が集まるので、そこで防災・防犯要素を取り入れた地域活動の宣伝をしてはどうかという提案がされました。

松浜小学校区（工業地に隣接する住宅地で外国人比率が比較的高い地域）

- ・ 人が多く集まる祭や地引網などに、防犯パトロールや火の始末の仕方を教えるなど安全安心の要素を取り入れることで、多世代や外国人とのコミュニケーションを図ることが提案されました。
- ・ 若い人が参加したいと思うような地域活動とは何かについて問うアンケートを実施することが提案されました。地域活動に若い人を呼び込むためには、まず若い人が何を求めているのかについて知る必要があるという意見が出されました。

亀田西小学校区（古くからの住宅と新興住宅が共存する郊外住宅地）

- ・ 江南区だよりの亀田西小学校区版をつくり、より地域に密着した情報を共有したいという意見が出されました。
- ・ 地元の企業への工場見学や職場体験を通して、地域と企業とが連携することが必要であるとの意見が出されました。
- ・ 中学生に防犯パトロールに参加してもらうことで、小学生の安全は自分たちが守るという地域の大切な役割を担ってもらうことがよいとの意見が出されました。また、防犯パトロールを通して知らない人に対してもあいさつをすることで、亀田西小学校区は「あいさつをする街」になろうという提案がありました。